

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする (令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)

【中期目標】 がんと診断された時から患者と家族が抱える様々な苦痛に対する適切な緩和ケアを提供できる体制を整備する (令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	①各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育を行う。 ②各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者と専門家の連携を密にする体制を明確にし、周知する。
今年度全体目標	①各施設で緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育(新人教育、経年者に対する知識のブラッシュアップ)を行う。 ②各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。 ③緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家との連携を強化する。

鳥取大学医学部附属病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催 2. 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 3. 看護師に対するコース研修開催 4. 緩和ケアに関連する委員会での研修 5. 勉強会開催・病棟における勉強会開催 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知 2. 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 3. 緩和ケア専門家との連携方法の再考 4. リンクナースの機能強化と連携強化 5. 地域医療機関との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・米子緩和ケア研究会 2か月に1回(R4年度は10月開始)参加 ・中海緩和ケア研究会 1年に1回開催。 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアチーム・緩和ケア科の体制整備 2. 専門的緩和ケアを担う人材育成 	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PEACE研修は令和5年2月開催予定 3. 看護師に対するコース研修開催 <p>緩和ケアコース研修(全5回)：参加者27名(院内)／院外10名程度</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアポケットマニュアル(令和3年3月改定)を作成 緩和ケアマニュアル (2021年11月改定) 2. 緩和ケアチームおよび緩和ケア科依頼方法の定型化あり。PCスクリーンセーバー、サイネージによる周知実施。 3. 緩和ケアチーム医師・看護師が各診療科および病棟カンファレンスに参加し、相談しやすい体制を確保している。 4. がん看護リンクナース会あり。病棟でスクリーニングした結果をリンクを通じて緩和ケアチーム看護師に報告している。 5. 米子緩和ケア研究会10月開催した。中海緩和ケア研究会を1月に開催予定であったが、今回は世話人会のみ実施となった。その他、西部圏域および鳥根東部の往診医に提供できる医療について確認中。一覧作成・配布予定。 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. R4.4月から緩和ケア医が変更となり、新体制を構築した。周知のために上述②の通り広報活動を実施している。 2. 週1回のカンファレンスにアドバイザーとして松江市立病院の安部先生に入っていた。2週間に1回薬剤勉強会を開催(院内医療従事者対象) 	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・3. 例年開催しているPEACE研修およびコース研修は、予定通り実施できた。 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予定通り緩和ケアポケットマニュアルを改訂。年度内に配布できた。 2. 予定通り広報活動を実施できた。毎年医療者の異動があるため継続した広報活動は必要である。 3. 緩和ケアチーム看護師による病棟カンファレンス参加は定着している。 4. 今年度はリンクナースに苦痛スクリーニングの結果を報告してもらったが、タイムリー且つ全数報告には至らなかった。勤務都合もあり、リンクナースが全ての結果を把握するには限界あり。 5. 今年度の米子緩和ケア研究会開催は議題が集まらず1回のみであった。次年度は開催方法を再考して取り組む必要あり。中海緩和ケア研究会は世話人会実施し、次年度5月に開催準備中。西部・鳥根東部の緩和ケアリーフレットを作成し、配布した。 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアチーム新規紹介137件/年(前年93)、緩和ケア科受診患者77件/年(前年44)と増加した。 <ul style="list-style-type: none"> ・2月にPCT依頼者満足度調査実施(満足度100%) ・2月に患者満足度調査実施(満足度100%) 2. コロナ感染状況により、集合研修や回診・カンファレンス参加者の縮小など行いながらも安部先生のご指導の下、知識のブラッシュアップを図ることができている。 	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者に対する基本的緩和ケアの研修は継続した実施が必要である。 ・経年者に対しては、緩和に関する新しい情報を 適宜発信していき、知識をブラッシュアップ できるようにしていく。 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マニュアル改訂および広報活動は適宜実施していく必要あり。 4. 苦痛スクリーニングの実態把握については、緩和ケアチームで電子カルテのデータを集計する方法に変更する。また、苦痛のある患者についてPCT医師を交えて病棟カンファレンスを行い、紹介につなげる 5. 米子緩和ケア研究会は対面開催に変更する。 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケア診療体制の広報継続

鳥取県立中央病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①</p> <p>-1)医師等向けへの緩和ケア研修 (PEACE) を開催する (2022/12/10予定)</p> <p>-2)看護師向けの研修会 (ELNEC-J) を地域の医療従事者を対象に開催する (2022/7/23～24予定)</p> <p>-3)緩和ケア委員会主催の研修会を年1回以上企画、実施する</p> <p>-4)リンクナースと連携し、病棟単位での勉強会、ミニレクチャーの開催を推進する</p>	<p>①</p> <p>-1)12/10開催に向けて準備中。なお、現時点の申し込み人数は20名 (医師13名、看護師4名、臨床心理士2名、作業療法士1名) である。</p> <p>-2)7月開催の予定であったが新型コロナウイルス感染拡大時期と重なり開催延期となった。10/29～30に規模を縮小して開催した。</p> <p>参加者：看護師19名 (院内10名、院外9名)</p> <p>-3)緩和ケア委員会、緩和ケア病棟合同での研修会を調整中である。</p> <p>-4)リンクナースはNICU、手術センターを除く全部署に1名配置されており、救命救急センター・集中治療センター以外は週1回の緩和ケアラウンドで対象者がいる場合はその都度カンファレンスを実施している。</p> <p>病棟単位での勉強会を依頼に応じて適宜実施している。</p> <p>病棟勉強会</p> <p>6/7「緩和ケア概論・緩和ケア病棟」11名</p> <p>7/14「疼痛の評価と治療 (主にオピオイド) 約10名</p> <p>10/13 「エンゼルケア/COVID-19患者を中心に」約10名</p> <p>11～12月「ACP」予定</p>	<p>①</p> <p>-1)予定通り開催した。医師はすべて研修医であった。地域の医師などの参加がなかった。</p> <p>-2)縮小したが開催できた。多施設開催がよかったとの評価を得た。</p> <p>-3)コロナ禍で延期していたが開催できた。97%の参加者が満足できたとの評価を得た。</p> <p>-4)少人数での開催で満足度は高かった。</p>	<p>①</p> <p>-1)地域の医療機器間への広報を強化する。締め切りが近づいたタイミングで再度周知する。</p> <p>-2)継続。来年度は県全域に対象者を拡大する。</p> <p>-3)来年度は回数を増やして開催予定である。今年度のアンケート結果をもとにテーマを検討する。</p> <p>-4)継続</p>
<p>②</p> <p>-1) 連携の強化 (下記③)</p> <p>-2) 緩和ケアの専門家が不足しており、その育成について検討する (緩和ケア医、認定看護師、認定薬剤師など)。すぐに増えることは難しいので、現状の把握、今後の計画を病院上層部とも共有する。</p>	<p>②</p> <p>-1)下記③参照</p> <p>-2)9月に現状の共有を行い、充足するよう対応を協議した。</p>	<p>②</p> <p>-1)下記③参照</p> <p>-2)進捗なし</p>	<p>②</p> <p>-1)下記③参照</p> <p>-2)継続</p>
<p>③</p> <p>-1)院内の緩和ケアマニュアルの改訂を継続し、職員へ周知する</p> <p>-2)緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、がん相談支援センターなど院内のリソースを紹介し、対応できる内容について継続的に周知をはかる</p> <p>-3)緩和ケアチーム依頼フォームの見直しをおこなう</p> <p>-4)リンクナースと緩和ケア病棟スタッフのELNEC-J受講率70%以上を目指すことで機能強化、連携強化につなげる</p>	<p>③</p> <p>-1)マニュアル院内のポータルサイトに掲載しており、適宜改訂している</p> <p>-2)緩和ケア委員会内において、緩和ケア病棟の特徴や対象者、入棟までの流れなど周知をはかった。がん相談支援センターについてもリーフレット改訂に併せて再度周知をはかった。</p> <p>-3)緩和ケアチーム依頼フォームの見直しを行い、7月より運用を開始した。</p> <p>-4)ELNEC-J受講率は日程変更の影響もありリンクナース60%、緩和ケア病棟58%にとどまった。</p>	<p>③</p> <p>-1)令和5年4月にずれ込んだが改訂した。</p> <p>-2)委員の理解が深まった。</p> <p>-3)見直しは行ったが、依頼件数の顕著な増加はみられなかった。</p> <p>-4)開催延期・縮小の影響があり、目標は達成できず。</p>	<p>③</p> <p>-1)継続</p> <p>-2)委員の交代もあるため継続予定</p> <p>-3)終了するが、引き続き活用を促す</p> <p>-4)対象者への参加を促す</p>

鳥取県立厚生病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>・ 医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催</p> <p>→2022/12/10予定 (院内スタッフ限定とする)</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>・ 2022/12/10開催予定</p> <p><講師・ファシリテーター> 緩和医療担当医師3名、その他医師2名、看護師6名、MSW1名。</p> <p><参加者> 研修医6名、理学療法士1名、薬剤師1名、公認心理師1名、看護師3名</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>・ 予定通り開催できた。</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>・ 令和5年度は院外からも受講者を募集する予定。</p> <p>・ 2023年12月上旬予定。</p>

<p>・看護師向けの研修“ELNEC-J”開催 →予定なし（参加希望者は鳥取県立中央病院、鳥取市立病院での研修へ参加するよう声掛け）</p> <p>・看護師に対するコース研修開催 →予定なし（ラダー研修を行う）</p> <p>・緩和ケアに関連する委員会での研修・勉強会開催 →2022/06月予定：口腔ケア研修会 2022/08月予定：コミュニケーション研修会 2022/10月予定：ACP研修会 2022/12月予定：がん性疼痛看護認定看護師による研修会 2023/02月予定：緩和ケア認定看護師による研修会</p> <p>・病棟における勉強会開催→ニーズに合わせて適宜開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>・職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知 →ポケットマニュアルを携帯 緩和ケアチームラウンド時に活用 新入職者へは説明とともに渡す マニュアルの見直しを行う</p> <p>・緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 →院内報を出し、周知</p> <p>・緩和ケア専門家との連携方法の再考 →緩和ケア外来、緩和ケアチームへの依頼方法について再検討</p> <p>・リンクナースの機能強化と連携強化 →委員会内で4つのワーキンググループへ編成し、活動を強化 委員会内で事例検討会</p> <p>・地域医療機関との連携強化 →当院の緩和ケア委員会に月1回参加 (藤井政雄記念病院の緩和ケア内科医と緩和ケア病棟看護師長)</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>・県内施設合同カンファレンスの開催 →2022/07/14予定：藤井政雄記念病院と野鳥病院との合同症例検討会 2023/01月予定：藤井政雄記念病院と野鳥病院との合同症例検討会</p> <p>・他施設の活動に理解を深め、自院の活動に生かす →当院は緩和ケア病棟がないため、中部唯一の緩和ケア病棟がある藤井政雄記念病院へ転院の際は、緩和ケアサマリを活用し、患者家族の思いや意向など細かな緩和ケアの実際を情報提供する。</p>	<p>・講師として当院緩和ケア認定看護師が、鳥取県立中央病院の研修に参加。受講生は当院から1名あった。</p> <p>・ラダー研修の中の「意思決定支援」「看護倫理」「臨死期の看護」で緩和ケアの内容を、講義・グループワークで学習を深めている ・多職種事例検討会：2022/05/12開催 参加者：緩和医療担当医師2名、その他医師1名、看護師13名、MSW1名、管理栄養士1名、理学療法士1名、作業療法士1名、薬剤師1名 ・口腔ケア研修会：2023/03/03開催 ・コミュニケーション研修会：2023/02/09開催 ・ACP研修会：2023/03/12開催 ・がん性疼痛看護認定看護師による研修会： 2023/4月～院内スタッフへ向けて動画配信 ・緩和ケア認定看護師による研修会：2023/03/12開催</p> <p>・疼痛アセスメントシートの運用や活用方法が周知徹底できていないことがあり、動画を作成し、配信。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>・2020年12月初版発行の緩和ケアポケットマニュアルを医師・看護師、緩和ケア委員は全員携帯。 ・異動者、新入職者へは、4月に配布。 ・委員会内で、緩和ケアマニュアルの改訂に向け、見直しをした。</p> <p>・院内報による介入方法の周知。 ・昨年度の依頼件数は新規58件中26件。</p> <p>・緩和ケア内科外来、緩和ケアチームへの介入依頼方法を検討し、変更した。</p> <p>・今年度の委員会は4グループで活動。 ・2022/05/12の委員会内で、事例検討会を行った。</p> <p>・コロナの流行期は、委員会を中止したり、来院いただくことができなかった。 ・書面での意見交換を実施。 ・情報共有（空床状況、患者層、転院後の患者・家族の状況報告）</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>・年1回、当院、野鳥病院、藤井政雄記念病院の3病院で緩和ケアに従事するスタッフによる合同症例検討会を開催。 ・2022/07/14は、コロナにより書面での意見交換。 ・2023/01月は、コロナで中止。</p> <p>・藤井政雄記念病院の緩和ケア病棟への転院の際は、看護サマリ以外にも「緩和ケアサマリ」を作成。 ・転院までに「緩和ケアサマリ」を用いたカンファレンスを実施し、終末期における継続した看護を提供。</p>	<p>・受講人数が少ない。</p> <p>・ラダー研修は予定通りできた。</p> <p>・コロナにより、委員会や研修が中止または延期となったものもあるが、参加人数を限定し開催することができた。</p> <p>・動画配信とすることで全病棟看護師の閲覧が可能。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>・緩和ケアチームメンバー、スタッフによるポケットマニュアル活用度の上昇。</p> <p>・依頼方法は周知できた。</p> <p>・依頼方法を変更したことで、件数に変わりはない。</p> <p>・4グループでの活動は、1グループのメンバー数が少なく、個人の負担が大きく、一体感に欠ける。</p> <p>・月1回の委員会での意見交換を継続。 ・転院後の患者・家族の状況を情報共有しスタッフが知ること、行った医療・ケアの継続の振り返りや評価につながる機会。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>・がん治療を行っている野鳥病院、緩和ケア病棟のある藤井政雄記念病院との合同症例検討会を主催することで地域全体での緩和ケアのレベルアップに貢献。</p> <p>・令和3年度、藤井政雄記念病院の看護師対象にアンケートを実施、「活用」との結果あり。</p>	<p>・令和5年度もELNEC-Jを開催する予定なし。院外研修の受講人数増加に向け、啓発。</p> <p>・令和5年度もコース研修の予定はなし。ラダー研修の内容の修正・検討。</p> <p>・今年度は、毎月の緩和ケア委員会で、1～2部署から症例紹介を計画。他部署の緩和ケアの実際を共有し、院内全体での緩和ケアに対する意識やケアの向上を図る。 ・令和5年度も口腔ケア研修会、ACP研修会、コミュニケーション研修会、認定看護師による研修会を企画予定。 ・状況に合わせて、対面、オンライン、動画配信などの研修形態へ変更。</p> <p>・令和5年度もニーズに合わせて勉強会を予定。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>・令和5年度は、緩和ケアポケットマニュアルを改訂予定。 ・ACPのマニュアル、エンゼルケアマニュアルの修正・改訂予定。</p> <p>・緩和ケアチームと病棟とのアドバイスの実践率。 ・アドバイスによるケアの状況、PDCAのチェック。</p> <p>・緩和ケア外来担当医が変わり、緩和ケア内科外来を啓発。</p> <p>・令和5年度は、2グループで活動。 ・緩和ケアチーム活動、研修の運営企画にリンクナースが積極的に活動し、個々のレベルアップ。</p> <p>・当院には緩和ケア病棟がないため、今後も、中部地区唯一の緩和ケア病棟のある藤井政雄記念病院と連携。 ・藤井政雄記念病院、野鳥病院との合同症例検討会を継続。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>・書面開催は、意見のやり取りができず、有意義ではない。令和5年度は対面での合同症例検討会を予定。</p> <p>・適宜、緩和ケアサマリの活用度、メリット・デメリットの評価。</p>
---	--	---	--

米子医療センター

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育として、医師向けの緩和ケア研修（PEACE）の開催、病棟における勉強会の開催をする。</p> <p>②緩和ケアに関するマニュアルの作成・更新を行い、周知する。</p> <p>③多施設が参加する研修会への参加、発表を行う。</p>	<p>①・PEACE研修 2022.10.1開催（参加13名） ・7階病棟勉強会（2022/5/25 緩和ケア概論、2022/6/20 鎮静について、コミュニケーション） ・8階病棟勉強会（10/14 緩和ケア概論、鎮静について）</p> <p>②院内マニュアルはあるが、H26年以降改訂がなく、今年度中に改訂予定。緩和ケアチームへの依頼方法については現在改訂中。リンクナース なし。各病棟に緩和担当ナースはいるが、定期的なカンファレンス等はない。</p> <p>③当院は訪問看護も行っており、短期退院の際の訪問や、他の訪問看護ステーションのサービス導入するまでの対応や、地域医療機関との連携を行っている。</p>	<p>①PEACEについては、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師など多職種が参加することにより、ディスカッションを活発に行うことができた。 看護師に対する勉強会については、病棟毎にニーズが異なるため病棟毎に開催した。</p> <p>②院内マニュアルについては現在改訂作業中</p> <p>③R4年10月に緩和ケア病棟が2年ぶりに再開したため、しばらくは日々の業務で手一杯の状態であり、研修会での発表の準備ができなかった。</p>	<p>①次年度以降も多職種への参加を呼びかけたい。 院内の勉強会における開催形式については今後各部署と相談していきたい</p> <p>③緩和ケア病棟が再開し、日々の業務も軌道に乗ってきた。R5年度は発表を積極的に行っていきたい。</p>

鳥取市立病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①緩和ケアを専門としない医療従事者へ基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1) 10/23（日）緩和ケア研修会</p> <p>2) 11/7（月）仮想症例を用いた倫理検討 対象者：鳥取市立病院看護師 目的：院内看護師の倫理観を養う</p> <p>②緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。</p> <p>1) 緩和ケアマニュアルの改訂</p> <p>③緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家の連携を強化</p>	<p>①</p> <p>1) 10/23（日）実施済 参加人数：12名（緩和医療担当医師0名、そのほかの医師12名、看護師6名、薬剤師0名、そのほか0名）</p> <p>2) 11/7（月）"モヤッとした事例"について考えよう 参加者：鳥取市立病院 看護師5名</p> <p>②</p> <p>1) 今年度中に修正するが、まだ改訂はしていない。（緩和医療学会が出しているガイドラインに沿って作成している。）PCTへの依頼方法は定型化がされていない。リンクスタッフはいない。</p> <p>③</p> <p>東部医師会と連携を図っており、地域の医療介護職の方々とACP研修を行っている。</p>	<p>①</p> <p>1) 研修医の参加がほとんどになってきており、臨床経験が少ない状況での研修となっている。</p> <p>2) 少人数での事例検討会。倫理的課題、多様な価値観、今後の自分たちの関わりについて検討することができ、来年度も開催予定。</p> <p>②</p> <p>1) 改訂終了。</p> <p>③</p> <p>11/2に東部医師会主催のACP研修に参加。</p>	<p>①</p> <p>1) 異動に伴い未受講の者も新たにいるので、現状のまま継続</p> <p>2) 研修回数を増やし、受講者の増加を目指す。</p> <p>②</p> <p>1) 今後も新規薬剤に対応できるよう、適宜改訂していく。</p> <p>③</p> <p>今後も東部医師会との連携を図り、研修参加を促していく。</p>

鳥取生協病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>1) 医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>①研修会の開催 ■鳥取生協病院緩和ケア研修会 2023年2月「栄養サポートについて（仮）」講師：管理栄養士 2023年3月「オピオイド使用について（仮）」講師：薬剤師 ■対人援助・スピリチュアルケア研修 日程調整中 講師：村田 久行先生 ■新卒看護師研修 2022年6月15日 緩和ケア総論 2022年7月6日 看護倫理</p>	<p>1)</p> <p>①研修会の開催 ■鳥取生協病院緩和ケア研修会（Web） 東部地域医療介護従事者43名（院内24名、院外19名）が参加。（医師2名、薬剤師8名、Ns32名、事務員1名） オピオイドの効果や副作用について、また痛みの機序や痛みの評価など幅広く講義を行った。 ■対人援助・スピリチュアルケア研修 受講者8名（Ns3名、PT2名、OT1名、ST1名、歯科衛生士1名）、</p>	<p>1)</p> <p>①研修会の開催 ■鳥取生協病院緩和ケア研修会 専門スタッフによる研修会を行うことで、薬物療法に対する理解が進んだ。Web開催であり、院外からも気軽に参加して頂いた。ただ、Webである質問が出にくく、他施設スタッフとの交流も少ない印象がある。 がん患者の栄養についても研修会を予定していたが、諸事情により中止となった。</p>	<p>1)</p> <p>①研修会の開催 ■鳥取生協病院緩和ケア研修会 研修回数を増やす。 コロナの感染状況も把握しながらではあるが、今後はオンライン+対面での研修会を検討していく。</p> <p>■対人援助・スピリチュアルケア研修</p>

<p>講師：緩和ケアCN ■教育委員会学習会 2022年11月8日 臨床倫理 講師：緩和ケアCN ■病棟学習会 各病棟のリンクナースを中心に企画を検討</p> <p>2) 医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 ①緩和ケアチームラウンド・カンファレンスの継続 ②病棟・外来・訪問診療所との連携強化患者情報の共有、合同カンファレンスを実施し切れ目のない緩和ケアの実践 3) 各施設の課題の明確化と問題解決 ①緩和ケア委員会で各部署のメンバーからの現状聞き取りやアンケートを実施し、問題を明確化する→その後、課題に取り組む</p>	<p>他職種が参加している。援助的コミュニケーション（傾聴）とスピリチュアルケアの理論を演習・ディスカッションで学びを深めている。</p> <p>■新卒看護師研修 新卒看護師16名参加。 「緩和ケア総論」では、緩和ケアの概論やコミュニケーション、意思決定支援、価値観について学びを深めた。 「看護倫理」では、倫理綱領を振り返ると共に、看護師が直面する倫理的問題について4分割表を用いて分析し、具体的なケアを考えた。</p> <p>■教育委員会学習会 2) ①チームラウンドとカンファレンスを毎週木曜日に実施し、相談依頼について検討を行っているが、リンクナースの出席率は低い。チーム依頼方法は定型化されている。 ②同法人内ではあるが、すえひろ生協診療所から訪問診療を行い、入院・外来・在宅で切れ目のない緩和ケアの実施。入院から在宅移行の際には、多職種で合同カンファレンスを行っている。 3) ①緩和ケア委員会でメンバーから「終末期の患者に医療用麻薬を使用することが怖い」という意見もあった。また、緩和ケアに関する学習会を実施してきたが緩和ケア病棟のスタッフを中心である。 ※症状緩和についてなど 独自で緩和ケアマニュアルを作成し、電子カルテにも入れ、いつでも閲覧できるようにしている。 （日本緩和医療学会ガイドライン）</p>	<p>■対人援助・スピリチュアルケア研修 他職種で参加しているが、看護師やリハビリスタッフが中心となっている。研修生も増えてきているが、再学習の場が少なく、実践での振り返りができていない。</p> <p>■新卒看護師研修 新卒看護師への研修は定例化され、学びの場が確保されている。しかし、中堅以上のスタッフに対しては学習の場が少なく、自主性に任されている。緩和ケアに対して誤ったイメージを持つスタッフ、倫理は苦手意識を持つスタッフも多い。</p> <p>■教育委員会学習会 教育委員・病棟学習会は業務時間内で行われており、業務優先と</p> <p>2) ①コロナ関連で休暇を取らざるを得ないスタッフがいるなど、常にマンパワー不足が続いている。短時間でもリンクナースがカンファレンスに参加し、患者の医療ケアについて共有できる時間を確保していきたい。 ②同法人内の電子カルテが統一され情報を得る機会は増えている。また、合同カンファレンスで情報を深め、スムーズな退院調整が行えている。 3) 緩和ケアは病気の診断時から開始、看護の基本ともいえるが、どうしてもPCU以外のスタッフは「緩和ケア」に対する意識が低い現状ともいえる。まずは、リンクナースとのコミュニケーションを増やし、教育の機会を届け仲間づくりを行っていくことも大切なかもしれない。 ※マニュアルも2019年12月24日が最終改訂。日本緩和医療学会のガイドラインも更新されているため、早急な改訂が必要</p>	<p>研修生の聴講を勧めたり、臨床現場での実践を振り返る機会を設けることも検討する。</p> <p>■新卒看護師研修 委員会や院内全員学習会の場を利用し、知識の習得に努める。</p> <p>■教育委員会学習会 学習会の開催時期や時間の検討する。</p> <p>2) 依頼部署のスタッフはリンクナース以外でも、スタッフが出席できるように職責等と調整を図る。 3) リンクナース教育を強化する取り組みを検討する。 ※マニュアルの更新。</p>
--	--	--	---

野島病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 1) 医療従事者へ基本的緩和ケアに関する教育を行う 2) 緩和ケアに関連する緩和ケア委員会（院内）での勉強会 3) 緩和ケア委員会での研修の充実を図る</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 1) 緩和ケアチームと他職種間で連携を取りやすい関係性を築く 2) 院内での情報の共有を行う 3) 地域医療機関との連携強化</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決 合同カンファレンスの開催</p>	<p>① 1) 緩和ケアポケットマニュアル（鳥大）を使用し各自で確認した。WEB研修会を開催し、参加を促した。 2) 実施できていない。 3) 実施できていない。</p> <p>② 1) 多種職種で連携し情報共有をしている。 2) 特に薬剤部との連携は密に行っている。 3) 藤井政雄記念病院緩和ケア医が代わられたこともあり、当院へ来院いただき緩和ケア医、緩和ケアNsと情報共有をした。・厚生病院と連携をとり研修の参加予定だったが、コロナのため様々な研修が中止となった。</p> <p>③ 年に1回開催される厚生病院、藤井政雄記念病院、当院合同症例検討会はコロナの為、中止となり、書面で開催した。</p>	<p>① 院内で緩和ケアチームを発足しているが十分な活動が出来ていない。</p> <p>② 1) 2) 連携は図れていた。抗がん剤使用前に薬剤師より薬剤の説明、副作用の説明を患者に行ってもらい、医師、看護師の口頭での申し送りも行っている。電子カルテにも詳細を入力し、共有が出来ていた。</p> <p>③ 開催形式は変更となったが実施できた。</p>	<p>① 緩和ケアチームの体制を整え、コロナ前のように月1回、又は2か月に 1回のチーム会を行う。院内で研修会の広報を行い参加を促す。</p> <p>② 小規模病院であるメリットを生かし、継続して連携をとっていく。 訪問看護部門とも連携を図る。 3) 当院でも研修会を計画し、参加できる体制を整備する。 3病院で連携し中部の緩和を知っていただき、人材育成に繋げる。</p> <p>③ 次年度は、対面で合同カンファレンスを開催する。</p>

山陰労災病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>① 癌治療に関する情報提供とともに緩和ケアに関する知識の普及をはかる。具体的には、テーマを決めて講義の形態にしたものを院内のイントラネット上に配信し、全職員が閲覧、受講できるようにしていく。</p> <p>②院内緩和ケアマニュアルの整備を行う</p> <p>③緩和ケア回診を行って病棟担当者と情報を共有していく。</p>	<p>① 院内研修会(Web) 1.テーマ：がん患者の自宅療養に向けた関わり。ねらい：入院から在宅移行時に適切なタイミングで介入が出来る。在宅療養に向けての必要な支援を理解する。 開催日時：令和4年6月13日～令和4年7月3日。 講師：在宅看護専門看護師。 2.テーマ：がん患者におけるせん妄について。ねらい：がん患者の出現しやすい症状を知り、適切な薬剤の使用方法や介入方法が理解できる。開催日時：令和4年7月11日～令和4年7月31日。 講師：外来がん治療認定薬剤師 3.テーマ：免疫チェックポイント阻害薬について。ねらい：がん患者が出現しやすい症状を知り、適切な薬剤の使用方法や介入方法が理解できる。 開催日時：令和4年9月5日～令和4年9月25日。 講師：外来がん治療認定薬剤師</p> <p>② 緩和ケアに関する独自のマニュアルはある。緩和ケアチームへの依頼方法は定型化されたものはあるが、あまり活用されていない。その代わりに毎週オピオイドを使用している患者には病棟でカルテ回診を行い、問題点についてカンファレンスを行っている。</p> <p>③ 緩和ケアに関するリンクナースはいないが、担当看護師はいる。</p>	<p>① <1.研修内容について> ・必須研修ではないが180名以上のスタッフにみていただくことができた。特に医師や看護師の視聴が多く、自宅療養についてはスタッフの興味のあるテーマの一つであったと言える。研修内容についても新しい知識を得ることが出来た、発見や気付きがあったと約9割のスタッフから回答を得ることができ有効な研修であったと考える。自由記載でも多くのスタッフから参考になった、今後にかかしていききたいなどの意見があった。また、事例を挙げてもらいたかった、独居患者のターミナル期の支援について知りたいなど要望もあり、今後の研修に取り入れていききたいと考える。 <2.研修内容について> ・必須研修ではないが140名程度の看護師、医師、コメディカルなどに視聴していただくことが出来た。9割以上のスタッフが新しい知識を得ることができた、理解できたと答えており、研修のねらいは達成できたと考える。自由記載のコメントからみても、実際に現場ではせん妄患者の対応に困ることが多く、今回の研修内容を実践で活かしていきたいという声が多く書かれていた。臨床現場の現状に合わせた研修が行えたと言える。Web研修のため、自分のタイミングで視聴ができ、資料をコピーして現場で見直せていいとの意見があった事よりWeb研修は有効であったと考える。 <3.研修内容について> ・今回化学療法を扱うスタッフの視聴が多かった。視聴したスタッフからは、よくわかった、今後にかかしていききたいなどの声が多くあった。なかには印刷してファイルしておくという意見もあり、研修内容を今後化学療法時に活かしていただけると考える。緩和を含まない研修であったため、視聴件数は前回より減少はした。しかし、化学療法に携わるスタッフからの視聴はありWeb研修は有効であったと考える。</p> <p>② 院内の緩和ケアマニュアルは定期的な見直しが必要と考えられる。</p>	<p>① 緩和ケアに関する知識向上のため令和5年度も継続してWeb研修会を行う予定。</p> <p>② 令和4年度は緩和ケアマニュアルの見直しを行えなかったため、令和5年度は委員会のメンバーを中心にマニュアルの改訂を行う予定。</p> <p>③ 令和5年度も引き続き週1回の緩和ケア回診を行い、病棟看護師、病棟薬剤師、管理栄養士と情報共有し質の高い緩和医療を提供出来るように努めていく。</p>

博愛病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.院内研修会・勉強会の企画開催 (Web、動画配信)</p>	<p>① 1.院内研修会・勉強会の企画開催 (Web、動画配信) 2、3月に院内研修会をWeb配信 当初予定では薬局薬剤師への配信も検討したが、コロナ対策などの関係で院内のみ (1) スピリチュアルベイン関係研修会 89名閲覧 (看護師、看護助手が50%) (2) がん疼痛の基礎 185名閲覧 (医師、看護師、薬剤師、セラピスト、介護士等々)</p>	<p>① 1.院内研修会・勉強会の企画開催 (Web、動画配信) Web配信による研修会の実施 (計2回)</p>	<p>① 1.院内研修会・勉強会の企画開催 (Web、動画配信) Web配信による研修会を2回開催できた 比較的閲覧者は多かったが、時間的に長かったため、次年度に向け短縮した動画配信に加えて、ショート動画 (10分弱) なども行う。 研修会の配信を次年度調剤薬局などへも広げたい。 研修会アンケートで要望のあったテーマを取りあげる</p>

<p>2.病棟スタッフ会などでの出前勉強会の開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.緩和ケア処方設計支援Excelシステムの周知</p> <p>2.症状マネジメントの為のカルテ評価ツールの構築</p> <p>3.リンクナースの活動強化 (リンクナース向けの勉強会)</p> <p>4.緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底</p> <p>5.地域医療機関との連携強化 (1) LINE Worksシステムを利用した連携</p> <p>(2) 米子緩和ケア研究会等への参加</p>	<p>2.病棟スタッフ会などでの出前勉強会の開催 新型コロナウイルス感染症対策にて病棟閉鎖等で実施できず。下期においても同様に閉鎖などが相次ぎ、実施できず。</p> <p>②</p> <p>1.緩和ケア処方設計支援Excelシステムの周知 処方設計に関与する薬剤師へ利用促進の呼び掛けを実施し、利用していただくことにより、不具合なども発見でき、システム改修(8月に改定)を実施。システム改修に併せて院内緩和ケアマニュアルの改定(9月)</p> <p>2.症状マネジメントのためのカルテ評価ツール構築 電子カルテの評価テンプレートを作成 STAS-Jなどを元に疼痛アセスメントテンプレート せん妄スクリーニング(DST)のテンプレートを作成</p> <p>3.リンクナースの活動強化 チーム会でリンクナース向け勉強会を2回にわけて開催。 内容：がん患者の呼吸器症状、非がん患者の呼吸器症状緩和の勉強会 専門職以外の参加者：看護師6名、PT 1名、OT 1名、公認心理師 1名、薬剤師 1名 上期以降は、新型コロナ対策が強化され、開催自体ができず、有効なリンクナースの活動ができなかった。</p> <p>5.地域医療機関との連携強化 (1) LINE Worksの連携 病院薬剤師、調剤薬局薬剤師、訪問看護師との連携として、LINE works アカウントの連携が増加した。 前期 薬局薬剤師 2件 後期 薬局薬剤師 1件</p> <p>(2) 米子緩和ケア研究会等への参加 新型コロナウイルス感染症等の影響、院内の状況として参加できなかった。</p>	<p>②</p> <p>1.緩和ケア処方設計支援Excelシステムの周知 周知が不十分で利用は主に薬剤師にとどまっている。 より多くのスタッフへ利用してもらえるアナウンスが必要。 作成途中の緩和ケアマニュアルの改定ができなかった。</p> <p>2.症状マネジメントのためのカルテ評価ツール構築 現在アナウンスが不十分で今後利用促進が必要。</p> <p>3.リンクナースの活動強化 新型コロナウイルス感染症対策の状況を勘案しながらのため開催が限られ、活動自体に制限が多く、思うような活動ができなかった。</p> <p>5.地域医療機関との連携強化 (1) LINE Worksの連携 前期は薬局薬剤師2件、後期は追加で薬局薬剤師と訪問看護師との連携を行った。</p> <p>(2) 米子緩和ケア研究会等への参加 参加案内などの回覧を行ったが、新型コロナ対策および業務繁忙に伴い、スタッフ確保ができなかった。</p>	<p>2.病棟スタッフ会などでの出前勉強会の開催 下期、新型コロナウイルス対策により制限あり開催できず。制限緩和にともない、次年度実施したい</p> <p>②</p> <p>1.緩和ケア処方設計支援Excelシステムの周知 web研修会の開催などに呼びかけた。 緩和ケアマニュアルの改訂はできなかった。 次年度実施していく。</p> <p>2.症状マネジメントのためのカルテ評価ツール構築 昨年度、呼びかけが出来なかったため、次年度で実施したい</p> <p>3.リンクナースの活動強化 新型コロナ対策のため、リンクナースの動きが制限され、活動ができなかった。</p> <p>5.地域医療機関との連携強化 (1) LINE Worksの連携 薬局-薬剤部間、薬局-訪問看護ステーションへ枠組みを広げることができた。 次年度以降、さらなる拡大を推進したい。</p> <p>(2) 米子緩和ケア研究会等への参加 院内の新型コロナ感染症対策のため、参加できなかった。</p>
--	---	---	---

鳥取赤十字病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①オピオイド回診(週1回)による苦痛のコントロール状況の把握とスタッフ・患者支援</p> <p>②毎月1回、担当者を決め、事例検討とそれぞれの部署の特徴を活かした学習会の開催</p> <p>③がん看護研修会(がん化学療法、乳がん看護、緩和ケアCN担当)</p>			

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする
(令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)
 【中期目標】 がんと診断された時から患者と家族が抱える様々な苦痛に対する適切な緩和ケアを提供できる体制を整備する
(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	①各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育を行う②緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家の連携を強化する③各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る	
	前年度Plan	前年度Act
①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 <small>(医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催、看護師向けの研修"ELNEC-J"開催、看護師に対するコース研修開催、緩和ケアに関する委員会における研修・勉強会開催、病棟における勉強会開催etc)</small>		①各種研修会を企画・開催することができたが、受講者は新人や研修医が多い傾向あり。PEACE研修をはじめとして院外および多職種の参加は少ない傾向にある。基本的緩和ケアの教育は継続していく必要があるが、同時にチーム医療の推進として多職種が研修参加できるように配慮していく必要がある。
②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 <small>(職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知、緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底、緩和ケア専門家との連携方法の再考、リンクナースの機能強化と連携強化、地域医療機関との連携強化etc)</small>		②緩和ケアに関するマニュアルは整備されているが、改訂が滞っている施設も多い。また、依頼方法が定型化している/定型化した施設においても周知が不十分という課題が残った。引き続き緩和ケア専門家との連携整備と広報が必要である。
③各施設の課題の明確化と課題解決		③緩和ケア専門家の人材不足や育成、他施設連携を課題に挙げて取り組んだが、1年で成果は出ていない。継続した活動が必要である。

今年度の目標	①院内外・多職種を対象にした医療従事者の基本的緩和ケアに関する教育を行う。 ②緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家との連携を強化する。 ③各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。			
	Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 地域医療機関向けの研修開催 				
②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 緩和ケア専門家との連携方法の再考 リンクナースの機能強化と連携強化 多職種カンファレンス開催 地域医療機関との連携強化 				
③各施設の課題の明確化と課題解決				